



現地からのメール...

ER(救急外来)での活動、避難所訪問を行いました。

医療関係者もたくさん被災地に入っていました。ある避難所には、複数の医療の支援隊が訪問している一方で、支援隊がぜんぜん行っていない避難所もあるようで、各避難所にバランスよく支援隊を送り込めるようにする必要があったと感じました。

お薬の不足が目立ちました。特に小児科のお薬が不足気味で、大人用のものを小分けにして服用するように指示したりして急場をしのいでいる状況でした。

朝礼での情報です

トリアージ、赤、黄、減少傾向。緑、増加傾向。ベッド状況、かなり厳しい。

全体で500、処方外来350人(今まで最大)。医師の夜間体制は縮小。退院は促進していく。

避難所まわりでは小児の発熱、てんかん、パニック多く、心のケア必要。首相官邸から、坂総合病院へ直接電話あり、燃料の確認中、院長が交渉中。全国からの支援約400人。

VOICE

支援者の感想、記者会見での発言

夜 の8時頃に、高速も真っ暗で何も見えず、気づいたら病院で、泊るところも“手動ドア”で真っ暗な中ヘッドライトをつけてたどり着いた外来でみんなで寝袋で寝ていた。ERでトリアージ、患者も多く、床や台に布団を敷いただけとか…。見たことのない0歳児の点滴、採血とか…ベテランの看護師に助けってもらって、すごい経験になった。カマボコとかしかなく、卵アレルギーの子どもは何も食べられなくて…。情報がまったく入ってこない。原発のことで急に帰るといふ支援者もいて不安だった。

直 接医療行為できなくても避難所回りで血圧や体温測るだけでもありがたいと言われて、大阪から来たというすごい感謝されてやりがいがあった。元気に回復されても家が流されて無くなって、帰れない人もいて、診療以外でも問題は山積み…。職員は被災されていてがんばっていて、行かせてもらったこと、いい経験になった。また、今後の支援に検討することがあると思うので報告を出したい。

支 援者がたくさん来ていて驚いた。何をしたらよいかわからなかったが、教えてもらいながらトリアージをした。印象的だったのは避難所で、プライバシーがない中で、血圧をはかると高かったりして、ストレスがかかっていると思った。ゆっくり話を聞いてあげたりするのが大事だった。インフルエンザ、腸炎など多くなっていて、病院ERにも受診されていた。

東北地方太平洋沖地震への支援状況については下記のURLにて報告していきます

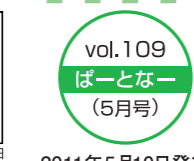
<http://www.mimihara.or.jp/sogo/info.html>

耳原総合病院 地域医療課

直通電話 072-241-0324

直通FAX 072-241-0208

- 「診察・入院申込書」「検査申込書」をFAXいただくか、お電話でご予約をお取りいたします。
- ※折り返しFAXにて予約票をお送り致します。
- 予約当日、患者様が受診の際にご持参いただくもの
- ①保険証、②診療情報提供書、③上記予約票
- ※上記の3点をご持参いただくよう、患者様にお伝えください。



2011年5月10日発行

発行人/松本 久 ■発行/社会医療法人 同仁会 耳原総合病院 地域医療課
〒590-8505 大阪府堺市堺区協和町4丁465番地

TEL 072-241-0501 (代表) TEL 072-241-0324 (直通)

URL <http://www.mimihara.or.jp/sogo/>

耳原総合病院の基本方針は「すべての方に24時間365日、質の高い医療を地域と共に提供し続けること」です

ぱとあ

耳原総合病院機関紙

vol. 109
2011.5. May

耳原総合病院の理念

耳原総合病院はこんな医療をめざしています

- ♥安全、安心、信頼の医療
- ♥無差別、平等の医療
- ♥患者負担の少ない医療
- ♥地域とともに歩む専門職の育成



東北地方太平洋沖地震

支援活動

東北地方太平洋沖地震による罹災地域の方々、
また被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。

当院でも1995年の阪神淡路大震災の教訓を元に、

3月13日に医師2名、看護師2名、事務1名の第1次医療支援団を

宮城県塩釜市の坂総合病院へ送りだしました。

被害状況から長期の支援が必要と思われます。

今後も引き続き支援団の派遣を進めたいと考えています。

社会医療法人同仁会 耳原総合病院

院長 松本 久



派遣者の見送り



支援会議



放射線量の測定